

乳幼児を持つ人々の交通行動とその支援に関する研究

—非子連れ者および子連れ者の意識分析—

福岡大学工学部社会デザイン工学科 辰巳 浩、堤 香代子、藤林 航

1. はじめに

厚生省の報告書によれば日本の平成24年の出生数は1,037,101人、出生率8.2で、平成23年より13,705人減少している。一方、平成22年の国勢調査では65歳以上の高齢者人口は約2,900万人で高齢化率は22.8%である。出生数と死亡数の差である自然増減数は、平成24年において出生数が死亡数を下回った県は43都道府県で、上回った県は4県である。このような人口形態や少子化が進むと長期的には人口減少となり、産業においても若い労働力を獲得することが困難になるなどの様々な問題へと直結する。国は高齢者や障がい者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー新法）を平成18年に施行し、高齢者や障がい者の支援に取り組んでいる。しかし、乳幼児連れに対しては支援が十分とはいえず、対応も急ぐ必要がある。そこで本研究では乳幼児連れ者の外出に関して、乳幼児連れと非乳幼児連れでの意識の違いを調査し、乳幼児連れ者から出るだけ負担の少ない外出ができる支援策について検討するために、子供の有無等別の意識の違いを把握することを目的とする。

3-2. 乳幼児を持つ者の行動

乳幼児の子供を持つ157人について、乳幼児を連れた公共交通利用状況を示す。

(1) 公共交通利用頻度

公共交通を利用しないが20.6%を占め、年に数回40.0%、月に数回31.0%、週に数回8.4%と乳幼児を連れた公共交通利用は非常に少ない。特に、男性がその傾向が顕著である。

(2) 公共交通手段別利用頻度

乳幼児を連れて公共交通を利用する125人の電車とバスの利用頻度は、週に数回が10%強である。電車よりもバスが利用頻度は少ない。

(3) 優先席の使用状況

乳幼児を連れて公共交通を利用する125人の公共交通機関内の優先席の使用状況は、一般席に空席があっても優先席を使用するが24.0%、一般席に空席がない時のみ使用するが59.2%、優先席は利用しないが16.0%である。また、そのときの心境は、当然ながら一般席を優先する方が申し訳ない心境の割合が多い。全体では何とも思わないと申し訳ないは約50%と拮抗している。

(4) ベビーカー使用状況

混雑した乗り物内でのベビーカーの使用状況は、使用しないが電車36.8%、バス48.1%、エレベーター13.5%を占める。乗り込む際にたたむ割合は電車31.0%、バス40.4%、エレベーター10.3%であり、エレベーター内では移動時間が短いこともありたたまないが76.3%と多い。電車ではそれぞれの割合が同程度である。

ベビーカーを使用する場合の心境は、電車とバスでは何とも思わないの割合は10.0~16.6%と少なく、乳幼児を持つ者の約50%は申し訳ないと感じていることがわかる。

3-4. 他人のベビーカー使用について

混雑した乗り物内で他人がベビーカーをたたまないことに対する心境は、少し不快・非常に不快が電車27.3%、バス33.5%、エレベーター17.1%であり、電車よりもバスが不快の割合が多い。

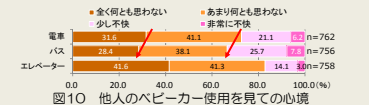


図10 他人のベビーカー使用を見ての心境

(1) 子供の有無等別

【電車】乳幼児を持つ者以外で非常に不快が7%強を占める。子供を持たない39歳以下で最も不快の割合が多く32.9%を占める。また、乳幼児を持つ者から乳幼児以外の子供を持つ者、子供を持たない140歳以上から39代以下へと不快の割合は多くなる。

【バス】非常に不快が子供を持たない39代以下で最も多く11.7%を占め、少し不快を含めると不快が41.6%を占める。また、乳幼児を持つ者も非常に不快が4.5%を占める。子供の有無等別では電車と同様の傾向にある。

【エレベーター】非常に不快が子供を持たない39代以下で最も多く6.4%を占め、少し不快を含めると不快が25.6%を占める。子供の有無等別では電車と同様の傾向にある。

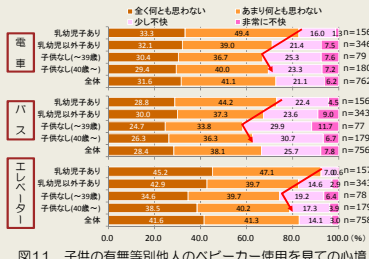


図11 子供の有無等別他人のベビーカー使用を見ての心境

2. 調査概要

乳幼児連れ者の外出に焦点を当てるために、調査対象者を乳幼児の子供を持つ者、乳幼児以外の子供を持つ者、子供を持たない者とした。よって、アンケートの調査項目は乳幼児の子供を持つ者とそれ以外の対象者に分けて、作成した。調査項目を表1に示す。

アンケート調査は2013年9月末の週末に、福岡市内の戸建てや集合住宅にポスティング形式で配布し、後日、郵送回収の方法で実施した。配布枚数は男性の回答を多く回収するために各戸2部綴りで4,000セットを、福岡市の7区の人口比に応じた部数を各戸でポスティングをし、770部回収された。回収率は14.0%である。

表1 アンケート調査項目	
個人属性	性別、年齢、職業、乳幼児・子供の有無
乳幼児を持つ者	乳幼児を連れた公共交通利用頻度とその交通手段、公共交通利用時の優先席利用状況、優先席について、ベビーカーについて、公共交通機関での子供のぐすりについて等
乳幼児以外の子供を持つ者・子供を持たない者	優先席について、ベビーカーについて、公共交通機関での子供のぐすりについて等

3-3. 優先席について

(1) 乳幼児連れの優先席使用を見て

乳幼児連れが乗り物内で優先席を使用することに対する心境を、子供の有無等別に示す。全く何とも思わない69.6%、あまり何とも思わない27.7%であり、不快と思っている割合は2.7%に過ぎない。また、子供の有無等別による違いはみられない。

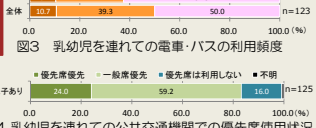


図12 電車内での他人のベビーカー使用を見ての心境

(2) 個人属性別

混雑した電車内でベビーカーをたたまないことに対する心境は、性別では男性よりも女性の方が不快の割合が多い。年齢では65歳以上の高齢者以外では、年齢が上がるにつれ不快の割合が多くなる傾向にある。職業では差がみられない。

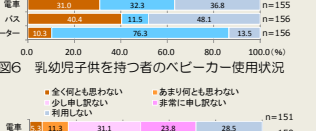


図13 ベビーカー使用制限への意見

(1) 子供の有無等別

【電車】乳幼児を持つ者とそれ以外で賛否の割合が逆転している。たむことに賛成・やや賛成が乳幼児を持つ者21.7%に対し、それ以外の子供の有無等では40.9~42.6%と多い。

【バス】電車とほぼ同値である。【エレベーター】乳幼児を持つ者はたむことに反対・やや反対が60.3%を占める。40歳以上の子供を持たない者の賛成の割合が多い。

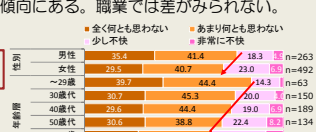


図14 子供の有無等別ベビーカー使用制限への意見

(2) 個人属性別

電車・バスともに同じ傾向であり、性別では男性と女性に大きな差はみられない。年齢では50歳以下ではやや反対・反対の割合は同じであるが、賛成側は年齢が上がるにつれ割合が多くなる傾向にある。また、60歳以上はたむことに賛成の割合が多く、反対の割合は他の年齢層に比べて約半分と少ない。職業では差がみられない。

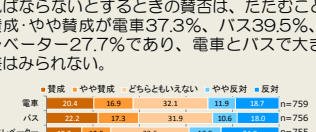


図15 電車・バス内でのベビーカー使用制限への意見

3. 調査結果

被験者770人を乳幼児の子供を持つ被験者、乳幼児以外の子供を持つ被験者および子供を持たない被験者の違いによる公共交通機関内の優先席や、ベビーカー利用意識について分析を行う。

3-1. 個人属性

乳幼児の子供を持つ被験者は157人、乳幼児以外の子供を持つ被験者は347人、子供を持たない被験者は266人である。子供を持たない被験者のうち39歳以下は80人、40歳以上は185人、不明が1人である。

被験者の年齢層で最も多い年齢層は40歳代の24.7%であり、20歳代以下の若い年齢層が若干少ないものの、年齢層に大きな偏りはみられない。

職業では会社員と自営業と公務員を有職者とした。性別は男性34.6%、女性65.4%であり、子供の有無等別割に男性と女性にほとんど差はみられない。職の有無別では有職者の子供の有無等別割は性別のそれにほぼ等しい。有職者以外では乳幼児以外の子供を持つ割合が50%を占める。全体では有職者以外の乳幼児以外の子供を持つ割合が最も多く29.3%を占める。

3-3. 優先席について

(1) 乳幼児連れの優先席使用を見て

乳幼児連れが乗り物内で優先席を使用することに対する心境を、子供の有無等別に示す。全く何とも思わない69.6%、あまり何とも思わない27.7%であり、不快と思っている割合は2.7%に過ぎない。また、子供の有無等別による違いはみられない。

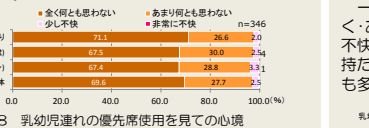


図16 公共交通機関内での我が子のぐすりへの心境

(2) 公共交通機関内の優先席使用への意見

公共交通機関内の優先席は乳幼児・幼児連れとともに優先すべきが63.6%、乳幼児のみ優先が27.5%であり、乳幼児・幼児連れとともに優先の意見が最も多い。子供の有無等別では39歳以下の子供を持たない者がその割合が最も低く、51.9%である。また、どうでもよいの割合が乳幼児の子供を持つ者と子供を持たない者で10%強を占める。40歳以上の子供を持たない者では不要が4.4%を占める。

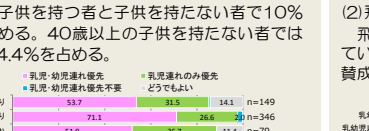


図17 公共交通機関内での他人の子供のぐすりへの心境

(2) 飛行機の搭乗環境

飛行機の搭乗の際、乳幼児連れを最初に案内していることに対する意見は、賛成が66.4%、やや賛成13.4%を占め、反対の割合は2%と少ない。

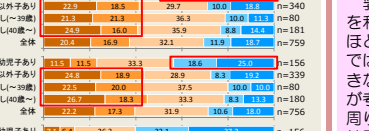


図18 飛行機搭乗時の乳幼児連れ優先への意見

4. まとめ

乳幼児を持つ者の乳幼児を連れて公共交通機関を利用する割合は、年に数回以下が6割を占めるほど利用が少い。また、電車よりも身近なバスでは約半数は利用しないと回答している。この大きな原因の一つが子供がくすした時の周りの視線が考えられるが、当事者が思っているほどには周りは気にしていないことが、このアンケートの結果から数字で明らかになった。

優先席は高齢者や体の不自由な者や妊婦などの利用は周知がなされているが、乳幼児連れの優先席使用のためらいや、乳幼児のみ優先すべきとの回答が3割を占めることから、乳幼児連れ優先の更なる周知も必要と考えられる。

混雑した車内でのベビーカー使用を見て、電車では3割弱、バスで3割強、エレベーターで2割弱が不快と感じており、特に、電車やバスでは1割弱が非常に不快と回答している。また、女性よりも男性、65歳以上の高齢者を除くと年齢が上がると不快の割合が多くなる。

混雑した車内でのベビーカー使用制限の賛否では、乳幼児を持つ者とそれ以外では賛否の割合が逆転している。乳幼児を連れた者の電車でのベビーカー利用の現状は、たむ・たたまない・利用しないが同程度でそれぞれ1/3の割合である。しかし、アンケートでは乳幼児を持つ者の6割以上がたむことに反対しており、一方、それ以外の者は5割強が賛成である。このように立場の違いで考えが違ってくるのが明らかになった。また、60歳以上では、特に、たむことに反対の割合が少ないのが特徴である。

乳幼児連れ者が出来るだけ負担の少ない外出ができる支援策を検討するために、子供の有無等別の意識の違いを把握することを目的としアンケートを行ったが、立場の違いで結果が反対になることを考えると、乳幼児連れの理解が大いに必要である。更に、39歳以下の子供を持たない者の結果からも若者への啓蒙活動も重要である。また、不快を感じている人々へ理解してもらえような対策も必要である。

図19 電車・バス内でのベビーカー使用制限への意見

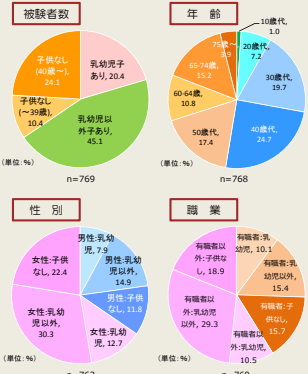


図1 アンケート数と被験者の個人属性

3-6. その他

(1) 子供のぐすり

乳幼児の子供を持つ157人について、自分の子供が乗り物内でくすする時の心境は、非常に申し訳ないが48.4%を占め、少し申し訳ないの46.5%を占めると、ほとんどが乗り物内で子供のぐすりに申し訳ないと感じている。乳幼児連れが公共交通機関利用頻度が低い要因の一つと考えられる。

一方、他人の子供がくすすることに対しては、全く・あまり何とも思わないが71.9%、少し・非常に不快が28.2%である。子供の有無等別では子供を持たない39歳以下が少し・非常に不快41.3%と最も多い。

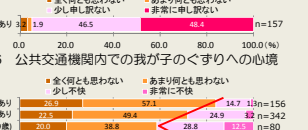


図20 公共交通機関内での他人の子供のぐすりへの心境

(2) 飛行機の搭乗環境

飛行機の搭乗の際、乳幼児連れを最初に案内していることに対する意見は、賛成が66.4%、やや賛成13.4%を占め、反対の割合は2%と少ない。

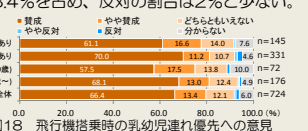


図21 飛行機搭乗時の乳幼児連れ優先への意見